

# 理工学部同樹会報

## 第 26 号

発行日 令和8年3月31日  
 発行者 〒036-8561 弘前市文京町3  
 理工学部同樹会(理工学部内)  
 題字 同樹会長 千葉 信行  
 印刷所 やまと印刷株式会社

## 郷土の偉人に魅せられて

弘前市観光部長

白戸 麻紀子

(平成6年 理学部生物学科卒業)



自然豊かな弘前市で生まれ育った私は、小さい頃から動植物が好きで、「高校の生物の授業が楽しかったから」という単純な理由で弘前大学理学部生物学科へ進学し、4年次は植物生理学を専攻しました。卒業後は、専門性を活かすこともなく弘前市役所へ入庁し、福祉、環境、商工、企画など多くの分野に携わり、現在は観光部に在籍しています。



さて、皆さんは、弘前ゆかりの植物学者「郡場寛」をご存じでしょうか？ 父親が弘前藩士で、中学時代の5年間を弘前で過ごし、植物学の道を志して東京帝国大学に進学。京都帝国大学などで教鞭を取り、晩年は、弘前大学の学長を務めた人物です。

京都帝国大学を定年退職後、日本軍が占領したシンガポールへ陸軍司政長官として派遣され、昭南植物園(現シンガポール植物園)の園長として終戦まで過ごしました。その間、日本軍による樹木の伐採に抵抗し、貴重な標本や資料の散逸を防ぐとともに、「敵性人」と呼ばれたイギリス人の元園長R・E・ホルタム博士や副園長のE・J・H・コーナー博士らが捕虜として収監されるのを阻止し、ともに研究を進めました。また、占領下で極度の食糧不足に悩まされていた二人を自宅に招き、「きちんと食事を摂らないとよい仕事はできない」と、食事を提供してあげていたそうです。

郡場が守った研究者達は、戦後、論文や著書などで、郡場への感謝や崇敬の念を示し、その功績を称えています。また、2015年にシンガポール唯一の世界遺産となったシンガポール植物園では、戦禍から貴重な

資料や研究を守った偉大な人物として、今なお、その功績が語り継がれています。後に郡場は、彼らとともに研究に没頭した約3年間の日々を振り返り、「最も幸福な時代であった」と述べています。戦時下の陸軍司政長官という身分でありながら、軍に抵抗し、同じ志を持つ敵国の研究者達を守る姿に、「学問に敵味方・国境はない」という強い信念が感じられます。

その後、創立間もない弘前大学の第2代学長に就任すると、農学部の創設に尽力し、現在の5学部体制の基盤を創るとともに、弘前公園の管理体制への提言や、りんごの栽培技術を活かした桜の管理方法「弘前方式」の礎を築いた工藤長政初代公園管理事務所長も郡場に教えを乞うたと伝えられるなど、弘前大学や地域の発展に大きく貢献しました。

現在、弘前市では、郡場によって繋がれた縁を辿り、シンガポール植物園との交流とシンガポールからの誘客に向けたプロジェクトに取り組んでいます。「人生是努力 努力是人生」を座右の銘としていたとおり、私利私欲がなく研究をはじめ何事にも一生懸命、温厚で誠実、多趣味で人間味のある郡場を、多くの人が慕っていたように、時代を超えて、私もその人柄に魅了されながら取り組みを進めています。

最近の取り組みとしては、郡場の功績を多くの方に知ってもらうため、大学の文京町キャンパスに現存している郡場ゆかりのメタセコイア3本を市の保存樹木に指定するとともに、令和7年には、農学生命科学部創立70周年記念事業として、同学部と連携し、弘前大学資料館での企画展や記念講演などを行わせていただきました。また、東信行農学生命科学部長(昭和62年理学部生物学科卒業)にも同行いただき、シンガポール植物園を訪問し、交流に向けた意見交換を行うなど、数年前からコツコツと地道に取り組んできたことが、ようやく目に見える形になってきたところです。地方公務員として、大学で学んだ専門性を活かす機会

がないまま長年過ごしてきましたが、ここに来て、植物学を学んだ経験を多少なりとも活かせていると感じています。

およそ70年も前に郡場は、「弘前が目指すべき街の理想像は観光と教育のまちである」と提言していま

す。人口減少や少子高齢化など、地方都市が進む道は非常に険しいですが、弘前大学や地域の方々とも連携しながら、観光都市・学園都市としての歩みを深め、弘前市の更なる発展に向けて、引き続き邁進してまいります。

## 定年退職教員

令和7年度末をもって、数物科学科 宮永崇史教授、鈴木裕史准教授、機械科学科 佐藤裕之教授がご退職されます。ご退職の先生におかれましては、永年にわたる教育研究活動、及び同樹会に対するご尽力に対し厚く御礼を申し上げるとともに、今後益々のご活躍と同樹会への変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。なお、先生方から本学部における様々な思い出や出来事に纏わるお言葉を頂戴しました。



## 思えば遠くへ来たもんだ♪

理工学研究科（数物科学科）

宮 永 崇 史

1988年6月、北陸生まれの私は博士課程終了後、大阪からの旅路の果てに弘前駅に降り立ちました。駅前には木造平屋の「荷物預かり所」の大きな看板が見えたのが印象的でした。その頃にはすでにイトーヨーカ堂のビルがありましたが、その昔は駅前から岩木山が見渡せたのではないかと思えたものです。当時、私が着任したのは理学部物理学科の助手でした。懇親会主催の歓迎会では「新任の人は1曲歌うのがしきたりです」と当時の幹事さんに言われて、桂銀淑の「大阪暮色」を歌ったと記憶しています。聞いてみると歓迎会で歌ったのは私が最初で最後で、まんまとはめられたようです。その宴会の席で当時の手代木渉学部長に、工学部出身のあなたには理工学部への改組に期待していると聞かされました。その後、理学部は理工学部になり、私は物質理工学科に所属します。その後も度重なる大学改革の波にさらされ、私の所属は物理科学科、そして現在の数物科学科へと変わっていきました。この間に私が果たした役割を手代木先生はなんと思うか聞いてみたい気がしています。

また、弘前大学で放射光を使う研究者は私が初めて

だと記憶しています。当時は日本でも本格的な放射光施設として、つくばの高エネルギー研究所（現、同研究機構）が稼働したことで、その頃から私は足繁くつくばに通ってきました。その後の改組で放射光を専門とする研究者が増えてきて、現在は日本の大学の中でも有数の放射光研究の拠点となっています。実は日本の放射光は1997年に兵庫県にできた世界最大級の施設を最後に長らく新設されませんでした。そのうち技術進歩が進み、スウェーデンやブラジル、台湾などに中規模で高性能の施設が建設され日本は置いてけぼりを食います。それではいかん、と東北大学副総長をされたW先生を中心に東北に新しい放射光施設を作ろうという機運が生まれ、各大学の学長に誘致をアピールする活動に私も同行したことを思い出します。いよいよ2024年から仙台に新しい放射光施設「ナノテラス」が稼働し、私のゼミ生もそこで働くことになり感慨深いものを覚えます。理工学部の皆様にはぜひ、ナノテラスを利用して新たな研究分野を広げていただくことを祈念して筆を置きます。これまで長い間ありがとうございました。



## 最初の学生

理工学研究科（数物科学科）

鈴 木 裕 史

平成10年に弘前大学へ赴任し、翌年の平成11年、二人の4年生が研究室配属してくれた。二人とも非常に優秀な学生でありそのまま大学院に進学してくれた

が、そのうち一人がぶっ飛んでいた。修士2年の12月まで就職活動を一切しなかった。就職が決まらなかったのではなく活動をしなかった。

そんな彼が年末に帰省した。年が明けたら活動開始しようかなと漠然と考えていたらしいが、空港に迎えに来てくれた父親がイラン気遣いで「焦らなくてもいいぞ」的なことを言ったという。父親は就職活動がうまくいっていないと解釈したようだ。まあ、普通の感覚ではそう思うのも致し方ない。しかし彼は素直に、焦らなくてもいいんだ、と受け取った。その結果、マスター修了ギリギリまで就職活動を放棄した。

最終的になんとか地元市役所の臨時職員になった。そんな折、彼の父親が友人と飲んだ。友人が「息子はどうしている？」的なことを尋ねた。父親は市役所の臨時職員であることを伝えた。任期はあまり長くない。友人は「じゃあ、俺のここに来るか？」と自分の会社に誘った。彼の職場は市役所からとある会社が変わった。数年後、その会社は畳むことになった。その時、取引先の会社（現在の会社）社長から誘われ、その会社に転職した。その会社は、豪華な額縁やオーダーメイドの家具などを作っている会社だった。

ここからはその社長に直接聞いた話。社長は入社に際し家具の設計図を彼に示し「こういうのは書ける

か？」と問うた。普通の人間なら「なんとかなります」とか「頑張ってみます」的な返答になるであろう。が、彼は違った。「こんなんでもいいんすか？」と。社長はカチーンと来たらしいが、やらせてみたら実際にできた。学生・院生の時は設計製図などやっているところは見たこともない。大きくはない会社なので設計・製作から営業・メンテナンスまで担っているらしい。私は社長に聞いた。「あのぶっきら棒な彼が営業をこなしていることが想像できない」と。社長は答えてくれた。「この部分にこのような家具をお願いしたい」と言われると、普通なら一旦社に持ち帰って後日連絡いたします的な返事になるところを、彼は「30分待ってください」と言って、30分後に案を示すのだそう。これで客先から信用を得ている、と。困ったら〇〇さんに頼ればなんとかなる、という定評を得ているという。絶大な信頼だ。跡継ぎの居ない社長は、次期社長を彼と決めているようだ。

赴任して以来、数多くの個性的な学生さん達と付き合い合ってきた。彼はその中のほんの一例に過ぎない。最も印象的なうちの一人ではあるが。



## 四半世紀を振り返って

理工学研究科（機械科学科）

佐藤 裕之

理工学部が設置されて29年目を迎えています。私が新たに設置された知能機械システム工学科に着任したのはその2年後の1999年4月のことで、27年間を理工学部・理工学研究科で過ごしてきました。学生・保護者の皆様、教職員の皆様とかけがえのない年月を過ごすことができたことに感謝しています。今在学されている学生の皆さんの多くが誕生されたのも理工学部が設置されたあとのことになり、また私が大学生として過ごした年月も40年以上前のことになりました。あらためて現在から30年前のことを考えると、つい先日のように思われるのが不思議にも感じられます。

私が大学生だったころから20年遡ると昭和20年代の後半に至るのですが、私が大学生として過ごしていた時分には、それは遠い遠い過去のこと、自らに関係のあることとして考えることはできませんでした。私の手許に、複本の整理のために附属図書館から放出された本多光太郎博士著、新制物理学本論（上）（下）があります。奥付を見ると、昭和27年発行、上下巻のそれぞれに定価¥280.00、¥380.00と記されていました。私がお世話になった恩師の先生方が大学生として過ごされたのが、ちょうどその頃なのだろうと思います。30年の長さが不思議な感覚として甦ります。こ

の教科書には、現在の高校物理で扱われている内容のほとんどが含まれており、その構成も、力学、物性、熱学、振動と波動、光学、電気と磁気…と、今の高校物理の学習指導要領とも大きくは異なっていないように見えます。昭和から令和に至るまで、高校物理の骨格は本多先生の教科書が礎になっていると言ってよいでしょう。

一方で、本学の専門課程の教科書や卒業研究および大学院の研究内容を見てみますと、その水準は私が大学生の頃と比べても非常に高い水準に至っているように見えます。教科や分野による違いもあるでしょうけれども、大学の4年間、大学院の2年間で修めるべき事々は密になり、カリキュラムも大きく変わり続けています。新しい酒は新しい革袋にとの例えのように、新しい学生の皆さんには新しい学修環境が必要です。私自身を古い革袋と考えたくはありませんが、若く優れた先生方に道を譲る時が来ました。優れた力に満ちあふれた学生の皆さんと優れた教育研究の力を持つ先生方に未来を託すことができることに安堵の念を感じています。同樹会・理工学部・理工学研究科をはじめとする弘前大学がますます発展されることを祈念しています。

## 理工学部と理工学研究科の就職状況

令和6・7年度 理工学部就職対策委員会委員長

梅田 浩司

理工学部／大学院理工学研究科博士前期課程の就職率は、令和6年度（令和7年3月卒業／修了）が96.7%/99.1%、令和5年度が97.2%/100%、令和4年度が97.8%/100%と、依然と高い就職率を維持しております。また、理工学部の大学院進学率は、令和6年度が54.1%、令和5年度が44.0%、令和4年度が43.4%と、前年に比べて10%以上増加しております。

2025年卒の新卒採用は、新型コロナウイルス感染症による一時的な採用抑制の時期を経て、いまや再び学生に有利な売り手市場が一段と鮮明になってきています。特に理工系の学生をめぐるのは、企業同士が人材獲得でしのぎを削っている状況です。政府は2018年度以降、学生が学業にしっかり取り組みつつ、安心して就職活動ができる環境を整えることを目指して、毎年、関係省庁の連絡会議を開いてきました。その中で「就職・採用活動日程に関する考え方」をまとめ、就職・採用活動の日程を示したうえで、経済団体などに対して守ってほしいと要請してきています。現在の就職・採用活動の日程ルールそのものは長く変わっておらず、大学などの卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降を広報活動のスタート、6月1日以降を採用活動のスタート、10月1日以降を内定解禁日としています。ただ、皆さんも実感されているように、ここ数年はこうした「公式ルール」と現場の実態とのズレがかなり大きくなってきています。

実際の動きを見てみると、インターンシップへの参

加は卒業・修了前年度（学部3年生、修士1年生）の7月頃から始まり、そのすぐ後には、採用を意識した企業説明会や選考が本格化していきます。その結果、就職・採用活動は事実上かなり前倒しで始まっており、3年次の授業が終わる2月以降に内々定を得る学生が増え、4月までにはおよそ7割の学生が内々定を持っている、という状況になっています。こうした早期化の背景には、学生側には「できるだけ早く内々定を確保して、そこから本命企業の選考に集中したい」という思いがあります。一方で企業側にも、労働力人口の減少などを踏まえ、「優秀な人材にはできるだけ早くアプローチしたい」という強いニーズがあり、その結果として前倒しの動きが加速していると考えられます。そのうえで、採用活動は早く始まるだけでなく長期化も進んでおり、就職活動に9カ月以上かけている学生の割合は、令和6年度には約5割にまで達しているといった調査結果もあります。このように採用・選考活動が早期化・長期化していることは、学生の学業や研究にあてられる時間を圧迫し、教育面での成長機会を削ってしまう一因になっています。結果として、専門性をじっくり深めたり、自分で考えながら学修する時間が十分に取れなくなり、長い目で見れば、日本全体としての人材育成の力や将来の競争力にも影響を与えかねない、という点が大きな課題だといえます。

表1 令和6年度（令和7年3月）理工学部卒業生の進路集計

	数物科学科	物質創成化学科	地球環境防災学科	電子情報工学科	機械科学科	自然エネルギー学科	合計							
進学	37	48.1%	26	59.1%	18	30.5%	33	63.5%	49	65.3%	17	65.4%	180	54.1%
農業・林業	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
建設業	0	0.0%	0	0.0%	5	8.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.5%
製造業	9	11.7%	4	9.1%	2	3.4%	1	1.9%	17	22.7%	1	3.8%	34	10.2%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%	1	2.3%	1	1.7%	0	0.0%	2	2.7%	2	7.7%	6	1.8%
情報通信業	13	16.9%	2	4.5%	4	6.8%	12	23.1%	1	1.3%	1	3.8%	33	9.9%
運輸業・郵便業	0	0.0%	0	0.0%	2	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%
卸・小売業	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%
金融・保険業	3	3.9%	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.2%
不動産業	1	1.3%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%
飲食店・宿泊業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療・福祉	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
公務員	4	5.2%	2	4.5%	13	22.0%	2	3.8%	3	4.0%	2	7.7%	26	7.8%
教員	1	1.3%	3	6.8%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.5%
その他の産業	5	6.5%	1	2.3%	9	15.3%	0	0.0%	2	2.7%	1	3.8%	18	5.4%
未就職・その他	4	5.2%	3	6.8%	2	3.4%	3	5.8%	1	1.3%	2	7.7%	15	4.5%
計	77	100.0%	44	100.0%	59	100.0%	52	100.0%	75	100.0%	26	100.0%	333	100.0%

表2 令和6年度(令和7年3月)大学院博士前期課程修士の進路集計

	学業	理工学専攻										合計		
		数物科学コース		物質創成化学コース		地球環境防災学コース		電子情報工学コース		機械科学コース				自然エネルギー学コース
進	2	12.5%	2	8.7%	1	16.7%	0	0.0%	1	2.0%	1	9.1%	7	5.7%
建設業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	2	18.2%	3	2.4%
製造業	7	43.8%	16	69.6%	1	16.7%	6	33.3%	41	83.7%	2	18.2%	73	59.3%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%	3	16.7%	2	4.1%	4	36.4%	10	8.1%
情報通信業	0	0.0%	0	0.0%	2	33.3%	7	38.9%	1	2.0%	1	9.1%	11	8.9%
運輸業・郵便業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
卸売業・小売業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
金融・保険業	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
医療・福祉	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教員	2	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.6%
公務員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%	1	0.8%
その他の産業	4	25.0%	2	8.7%	2	33.3%	1	5.6%	3	6.1%	0	0.0%	12	9.8%
未就職・その他	0	0.0%	2	8.7%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.4%
計	16	100.0%	23	100.0%	6	100.0%	18	100.0%	49	100.0%	11	100.0%	123	100.0%

## 令和6年度 理工学部卒業・理工学研究科修了 祝賀会

令和6年度学位記授与式と同日の令和6年3月24日、理工学部卒業・理工学研究科修了祝賀会を開催いたしました。前回同様オンラインツールを活用した事前参加申し込みを行いました。前回より参加申し込み数の伸びが低調であったため、急遽別のコミュニケーションツールを立ち上げて参加周知をしたところ、73名の来場をいただきました。ご参加いただいた皆様はもとより、開催にあたりご協力いただいた理工学研究科事務長をはじめ事務職員の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。当日のスナップ写真を以下に掲載しますのでご覧ください。



# 学 生 表 彰

理工学部学生、理工学研究科大学院生は、日々研究活動に努力しています。特に、学会等からの表彰を受けた学生は以下のとおりです（令和7年1月以降）。今後とも学生の活躍にご期待ください。

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）  
坂東航（2年）  
軽金属学会 軽金属希望の星賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）  
安藤杏将（2年）  
自動車技術会 大学院研究奨励賞

■理工学研究科博士後期課程  
Feng Changrui（修了生）  
Journal of Materials Science & Technology 誌 Excellent Article Award

■理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）  
土山啓汰（修了生）  
情報処理学会 第86回全国大会 大会奨励賞

■理工学研究科博士後期課程  
村上辰成（2年）  
日本化学会 第105春季年会 学生講演賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）  
栗田嘉斗（1年）  
第25回日本伝熱学会東北支部学生発表会 優秀プレゼンテーション賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）  
藤島睦生（2年）  
令和7年度日本火災学会 学生奨励賞

■理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）  
草刈颯太（2年）  
第19回日本分子イメージング学会総会・学術集会 優秀発表賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）  
工藤孝臣（2年）  
レーザー学会 第45回年次大会 論文発表奨励賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）  
渡邊詩織（2年）  
第353回計測自動制御学会東北支部研究集会 優秀発表奨励賞

■理工学研究科博士前期課程（物質創成化学コース）  
畠山優騎（1年）  
日本化学会東北支部 令和7年度化学系学協会東北大会 優秀ポスター賞

■理工学研究科博士後期課程  
楊芮（2年）  
化学工学会 第56回秋季大会 優秀ポスター発表賞

■理工学研究科博士後期課程  
周奕帆（1年）  
化学工学会 第56回秋季大会 優秀ポスター発表賞

■理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）  
白崎佑輔（1年）  
第130回日本医学物理学会学術大会 学生賞

■理工学研究科博士後期課程  
楊芮（2年）  
International Symposium on Energy, Environmental and Material Science, Best Poster Presentation Award

■理工学研究科博士後期課程  
Pattreeya Panpian（2年）  
International Symposium on Energy, Environmental and Material Science, Best Poster Presentation Award

■理工学研究科博士前期課程（物質創成化学コース）  
若山佑香（2年）  
第4回北東北地区大学高専交流会 最優秀発表賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）  
藤島睦生（2年）  
第4回北東北地区大学高専交流会 優秀発表賞

■理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）  
竹村凜太郎（1年）  
電子情報通信学会 磁気記録・情報ストレージ研究会 研究専門委員会委員長賞

■理工学研究科博士後期課程  
朱蓮峰（3年）  
The 13th Asian Conference on Biomass Science, Excellent Oral Presentation Award

■理工学研究科博士後期課程  
賈鵬龍（3年）  
The 13th Asian Conference on Biomass Science, Excellent Poster Presentation Award

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）  
丸山大輔（1年）  
第24回日本金属学会東北支部研究発表大会 優秀ポスター賞

■理工学研究科博士後期課程  
朱蓮峰（3年）  
The 36th International Symposium on Chemical Engineering, Keynote Presentation Award

■理工学研究科博士前期課程（物質創成化学コース）  
山口昂輝（1年）  
2025年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）  
工藤健斗（2年）  
日本熱物性学会 第46回日本熱物性シンポジウム 学生ベストプレゼンテーション賞

## 令和6 (2024) 年度 弘前大学理工学部同樹会決算書

令和7年3月31日

◆一般会計

収 入	支 出	繰 越
4,280,990	1,070,188	3,210,802

◎収入の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
繰 越 金	2,490,698	2,490,698	0	令和5年度より
会 費	1,500,000	1,760,000	260,000	正会員 176人 ( 学部 (新入生) 105人 1,050,000円 ) ( " (在学生) 62人 620,000円 ) ( 院生 9人 90,000円 )
卒業・修了祝賀会 当日会費納入分	75,000	30,000	△ 45,000	教員等 12人 30,000円
雑 収 入	200	292	92	預金利息
計	4,065,898	4,280,990	215,092	

◎支出の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
弘前大学同窓会費	252,000	252,000	0	令和6年度負担金
印 刷 費	195,000	157,300	△ 37,700	会報第25号 1,300部 (157,300円)
卒業・修了祝賀会費	455,000	350,000	△ 105,000	卒業・修了祝賀会経費 (350,000円)
通 信・運 搬 費	50,000	45,404	△ 4,596	加入案内送料 (研究科新入生) (5,204円) 未加入者へ加入案内送料 (学部4年) (39,710円) 会報送料他 (490円)
会 議 費	10,000	896	△ 9,104	お茶代
事 務 費	120,000	200,000	80,000	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消 耗 品 費	20,000	4,233	△ 15,767	ラベル用紙
郵便振替払込料	36,600	38,025	1,425	会費払込手数料、郵送通知料金
予 備 費	2,927,298	22,330	△ 2,904,968	弘前大学理工学部同樹会事務故丹藤氏葬儀花輪代
計	4,065,898	1,070,188	△ 2,995,710	

◆特別会計

収 入	支 出	繰 越
10,004,710	0	10,004,710

◎収入の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
繰 越 金	10,001,948	10,001,948	0	令和5年度より
雑 収 入	2,000	2,762	762	預金利息
計	10,003,948	10,004,710	762	

◎支出の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
特 別 事 業 他	0	0	0	
予 備 費	10,003,948	0	△ 10,003,948	
計	10,003,948	0	△ 10,003,948	

## 令和7 (2025) 年度 弘前大学理工学部同樹会予算書

令和7年4月1日

◆一般会計

◎収入の部

(円)

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
繰 越 金	3,210,802	2,490,698	720,104	令和6年度より
会 費	1,500,000	1,500,000	0	正会員 150人 × @10,000円 ( 学部 (新入生) 105人 ) ( " (在学生) 35人 ) ( 院生 10人 )
卒業・修了祝賀会 当日会費納入分	75,000	75,000	0	30人 × @2,500円
雑 収 入	200	200	0	預金利息
計	4,786,002	4,065,898	720,104	

◎支出の部

(円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
弘前大学同窓会費	216,000	252,000	△ 36,000	令和7年度負担金
印刷費	175,000	195,000	△ 20,000	会報26号 1,300部×@121円 払込取扱票印字印刷代 17,000円
卒業・修了祝賀会費	455,000	455,000	0	130人×@3,500円
通信・運搬費	62,000	50,000	12,000	加入案内送料(研究科新入生) 100人×@140円 加入案内送料(学部学生4年) 250人×@180円 会報送料他(3,000円)
会議費	10,000	10,000	0	お茶代他
事務費	240,000	120,000	120,000	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消耗品費	20,000	20,000	0	ラベル用紙、封筒他
郵便振替払込料	35,000	37,000	△ 2,000	会費払込手数料 150人×@200円 郵送通知料金 40通×@110円
予備費	3,573,002	2,672,320	900,682	
計	4,786,002	3,811,320	974,682	

◆特別会計

◎収入の部

(円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
繰越金	10,004,710	10,001,948	2,762	令和6年度より
雑収入	2,000	2,000	0	預金利息
計	10,006,710	10,003,948	2,762	

◎支出の部

(円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
特別事業他	0	0	0	
予備費	10,006,710	10,003,948	2,762	
計	10,006,710	10,003,948	2,762	

## 編集後記

平成17年度より幹事を務めております一條です。

1～2面の白戸様のご寄稿から、本学の歴史の再確認と郷土の先人の再発見の重要性を感じます。郡場第2代学長が体現された平和と国際交流への想いは、吉田第11代学長の告辞や吉田基金創設とも、福田現学長が本学創立80周年の先行事業のひとつとして展開しているパラオ訪問事業ともつながります(弘前大学同窓会報第27号をご参照ください)。つい当たり前とってしまう平和と、目の前の物事に忙殺され見失いがちな世界規模のサプライチェーンを改めて心に。

2～3面にて宮永先生、佐藤先生からは長きにわたる教育研究について、鈴木先生からは底力のある印象的な学生についてのエピソードをお寄せいただきました。各先生のもとで過ごした同窓生各位の思い出とリンクするのではないのでしょうか。

4～5面の梅田就職対策委員長のご寄稿から、就職活動の早期化と長期化の混合現象によって、学業不十分な学生、ひいては育成不十分な人材が増加するのではと未来への深い懸念を感じます。そのような中であっても、学業に真摯に取り組む学生の活躍を6面に紹介いたしました。

本学創立80周年へのカウントダウンが始まっております。会員各位のご支援を是非お寄せ願います。

## 役員一覧

- 会長 千葉 信行
- 副会長 山上 佳男
- 幹事 早川 博文  
(理工学部非常勤講師)
- 一條 健司  
(理工学研究科准教授)
- 芹田 美穂子  
(弘前大学生生活協同組合専務補佐)
- 監査 須藤 勝弘  
(総務部付技術専門職員・情報連携担当)
- 荒木 宏孝  
(理工学研究科教育研究支援室技術専門職員・副室長)
- 名誉会長 金本 俊幾  
(理工学研究科長)
- 顧問 岡崎 雅明  
(前理工学研究科長、教育担当理事・副学長)
- 佐藤 裕之  
(元理工学研究科長)
- 宮永 崇史  
(元理工学研究科長)

(敬称略)

### 事務局

弘前大学大学院理工学研究科 一條 健司

住所：〒036-8561 弘前市文京町三

電話：0172-39-3660

E-mail：keng@hirosaki-u.ac.jp

URL：https://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/

